



「私にとって歌は命、人生そのもの」
小川はるみ

歌謡ファンには馴染み
夏の風物詩コンサート

1963年2月にプロの歌手の権利や財産、名誉を守ることを目的として設立された「日本歌手協会」。初代会長は昭和の初めに「赤城の子守歌」や「国境の町」などで空前のヒットを飛ばし、流行歌手の地位を確立していた東海林太郎。設立当初は134名で発足したというが、その後、藤山(二郎)2代目やディックミネ(3代目)、田端義夫(5代目)、ベギー葉山(7代目)など錚々たる名歌手たちが会長を歴任し、現在の田辺靖雄(8代目・2010年)会長のもとで会員数580名を抱える業界団体に発展した。近年はチャリティーイベントや第一興商とタイアップした「プロレベル認定歌手オーディション」でも知られるが、毎年秋に2日間の日程にて昼夜4公演(全プロگرام出演者入れ替え制)で開催される恒例の「歌謡祭」歌謡フェスティバルは特に有名で、今年の第45回大会(11/13、14)を心待ちにしている

【公演情報】
日本歌手協会創立55周年記念コンサート
「夏の歌謡フェスティバル Vol.7」

2018年8月31日(金)
午後部 16:00(15:30 開場)
会場 かめありリリオホール
(JR亀有駅南口下車徒歩1分)
チケット 全席指定(税込)
6,000円/立見席1,000円/車椅子席500円
チケットお申込み・お問合せ
090-3878-5385 (小川)

【CD情報】
「私生まれる時」500円(税込)

収録曲
〈私生まれる時〉
(作詞:アバンセ池田/作曲:小泉源兵衛)
〈トロワ・シャンブル〉
(作詞:アバンセ池田/作曲:蛭名知子)
※アレンジは2曲ともギタリストの梅田光男

注目のシャンソン歌手、
小川はるみが31日に登場

ベテラン歌手と共に、デビュー間もない若手の爽やかで新鮮な歌声も聴ける機会として、歌謡ファンの心を掴んでいるこの夏のコンサート。今回ピックアップする8/31午後部も、田辺会長と夫人の九重佑三子を始め、三船和子、冠二郎、クミコ、田川寿美らスターが集結。なかでも注目の出演者はシャンソン歌手の小川はるみ。埼玉県出身の彼女は18歳より演劇を学び、小劇場や商業演劇、映像の世界に。三國連太郎監督「白い道」や実相寺昭雄監督の「D坂の殺人事件」(「姑獲鳥の夏」などの作品で女優としても活躍してきたが30歳でシャンソンに出逢って魅了され、有馬泉(日本シャンソン協会理事)に師事。現在は四谷三丁目駅近くのシャンソニエ「ヌーヴェル・あぼんせ」などのステージで歌っている。「私にとって歌は命、人生そのもの」と語る彼女。レパートリーも「ハリの空の下」(セシボン)「帰り来ぬ青春」(黒い鷲)といった王道から、映画音楽の巨匠ミシヨル・ルグランの「シエルブルーの雨傘」や「風のささやき」まで幅広く、平和へのメッセージソング「私生まれる時」や邂逅の想いを歌った「トロワ・シャンブル」らオリジナル曲(CD発売中)にも定評がある。

とても楽しみだ!
【東端哲也】